

## ミルクミーティング報告書

団 体 名	カザミドリ（子どもの発達を考える上春別親の会）
日 時	平成 27 年 8 月 27 日（木） 午後 1 時から午後 2 時 15 分まで
場 所	役場 1 階 101・102 会議室
団体参加人数	5 名
町側出席者	町長 福祉課長、福祉課主幹、学務課長 総合政策課長、総合政策課企画振興担当主査・主事
懇談概要	<p>町長挨拶、参加者自己紹介の後、懇談開始。</p> <p>（団体）講座や勉強会を開催する際、関係機関等に周知の協力をしてもらうことは可能だろうか。</p> <p>（町）営利や宗教目的のような類のものでなければ、問題は無い。気軽に問い合わせさせていただきたい。</p> <p>（団体）会を開催するにあたっての地域センター等の使用料減免について聞きたい。</p> <p>（町）地域センターは、町の担当課において申請状況を確認しながら判断している。まずは相談をしていただければと思う。</p> <p>（団体）発達障がいというものがあるということを、例えば保育園に入ったときに知識として教えてもらう。他にもそういう人がいて、こういう集まりがあるというようなことを情報として教えてもらうことができれば、親も育て方が楽になるのではと思う。</p> <p>（町）実際に保育園に預けた際、日々の生活の中で気づく部分もあると考えている。そのときは保護者の方に気づいた部分について伝え、相談が受けられる児童デイサービスを紹介するような流れになる。園に通わないケースでは、保健センターの何歳児検診の中で気づくこともあると認識している。</p> <p>・相談窓口は、保育園、幼稚園、学校、保健センターなど広く開設しているので、利用していただければと思う。現状では、保育園や幼稚園で気づいてもらえるような場面にはなっていると考えている。</p>

(団体)・例えばすくすく学級のようなものを町で企画して、この月にはこの地区で開催するというような方法でやってもらいたい。この辺では相談を受けられず、釧路や札幌の病院へ通うケースも多くあり、そういった仕組みづくりがニーズとしてあると思う。

・町内各地区に、発達障がいの子を抱えた親がたくさんいると思う。行き場が無いので、そういう親が気軽に集まり、思いや情報など共有ができるような会がもっと簡単にできて、活動できるような仕組みづくりを考えてもらいたい。

(町)すくすく学級でどこまでできるかというのは担当に確認しなければ分からないが、今後検討していかなければならないと思う。

(団体)・包括支援センターのように、全部そこでやってくれるようなものの子ども版があるととても便利。

・就学時、幼稚園から積み重ねてきたものを、教育委員会、デイサービス、学校と、全く同じことを3箇所全部で話さなければならず、それがストレスになる。一回話したものを、次の段階から資料等とともにスムーズに進むようにならないものか。

(町)・個人情報の関係もあるが、最初の段階で関連する情報を必要部署に提供させていただいてもいいという了解をもらい、関係のあるところにそれを出すことで手続きが簡易になるというようなイメージだと思う。

・仕組みづくりを変えていかないと解決していかない部分である。就学関係時の話として、今年から就学指導委員会から教育支援委員会というものに制度改正している。今までは就学時だけだったが、制度改正により例えば保育園の年少や年中、就学してからの2年生や3年生時など、手厚く観察や指導をしていくものへと変わった。今後、教育支援委員会を通じ、子ども自身が自分の目標に少しでも近づくような支援体制をつくっていきたいと考えている。以前よりはきめ細やかな相談ができる体制になっているものと思う。

(団体)特別支援を取ることにより、担任の先生一人では担いきれない部分も出てくるため、協力をお願いもしづらくなる。先生も協力してくれる気持ちはあるが、お互いどうすれば良いのか分からないし時間も取れない。そういう、行き場がなくなった時に相談できる窓口を現段階で把握していないので、なにかあるなら教えていただきたい。

(町)学校に関しては、教育委員会が窓口になる。先生方の対応については協議になるかと思うが、教育支援委員もいるので、相談していただけたらと

思う。

（町）障がいや子育てに関わる協議会への参加については、自分たちの状況などを知ってもらいたいということが、第一にあるのだと思う。関連する計画の策定について、なかなか発達障がいに関する意見が届いていないのではという部分については、今後意見を聞きとれるような体制の充実を図って行きたいと思う。

このような生の声・思いは、今後の計画や事業を進めていくうえで、拾い上げられるような努力をしていく。